
新・仮面ライダーディケイドリミックス

杉崎竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新・仮面ライダーディケイドリミックス

【Nコード】

N4094M

【作者名】

杉崎竜

【あらすじ】

ゲーム・漫画・アニメ・特撮など様々な作品とコラボします。コラボして欲しい作品がありましたら気軽に申し付けて下さい。

リミックス0 / 裏話

世界の破壊者デイケイド！！幾つもの世界を巡り、自分の世界を探してきた…。一向に自分の世界は見つからない…。だが、旅こそが自分の世界であり、物語であると気付いた。今、また新たな旅が始まるうとしている…。

門矢 士

「何だこのグダグダした始まり方は？」

小野寺 ユウスケ

「仕方がないだろ士。作者は文章能力が幼稚何だからさ！！」

光 夏海

「だから、読者の皆さんも温かい目で見て下さいね」

門矢 士

「はぁ…。作者の文章能力が幼稚なのは、名護総司って名乗ってた

時から変わらないのは知ってるが、またリミックス書くのか作者は？」

小野寺 ユウスケ

「リミックスは結構、自分の趣味や好きな作品の世界について書けるからだろ？」

光 夏海

「それに、リベンジの意味も込めて書いているみたいですよ。」

門矢 士

「ああ、全く内容も知らないままの錬金術師を一番始めに書いてたな…。しかも、挙げ句の果てにハヒの世界は強引に終わらせたしな…。」

小野寺 ユウスケ

「ちよっと…。(。・;) 士!!! いきなり、暴露し過ぎだろ!？」

光 夏海

「そうですね!!! 世界の次はこの小説を破壊する気ですか…!？」

門矢 士

「分かったから、ぎゃあぎゃあ喚くな!!! とにかく、次回からいよいよ俺の新しい旅がスタートとする。」 海東 大樹

「土、そこは俺ではなく達を付けて複数形にすべきだよね？」

小野寺 ユウスケ

「フィリ…来人の名台詞パクった〜!!」

海東 大樹

「僕は地球とは直結してないから。」

光 夏海

「と、とにかくこんな危ない感じのネタもありますが、ぜひ応援お願いします！」

リミックス0／裏話（後書き）

次回からスタートです。

リミックス1／新たな旅立ち（前書き）

最初に……。今回は、

1・かなりコメディ要素満点

2・夏海の出番なし

など、かなりぶっ飛んだ内容だと思います。コメディ満点のディケイドが見たくない方は、お戻り下さい。

リミックス1／新たな旅立ち

小野寺 ユウスケ

「次は、どんな世界何だろうな。」

青年、小野寺ユウスケは呟いた。

門矢 士

「さあな…。」

ユウスケの言葉を素っ気ない一言で片付ける青年の名は門矢士。世界の破壊者として恐れられていたが、今は見る影もない。

小野寺 ユウスケ

「さあな…って、士！！せつかくの旅何だからもう少し楽しもうぜ！！」

門矢 士

「毎日毎日、同じ事の繰り返しで飽きた…。」

小野寺 ユウスケ

「ダメだってそんな事言っちゃ！！ディケイドって作品を根本的に否定してるだろ？」

門矢 士

「だがな、そう言っても『おい、士君！ユウスケ君！ちょっと手伝ってくれ』はあ…、怠いな…。」

小野寺 ユウスケ

「ほら、俺達は居候何だから手伝いに行くぞ士。」

士とユウスケを呼んだこの老人は光栄次郎。士とユウスケが居候している光写真館の主人である。

光 栄次郎

「悪いんだけど、この背景ロールをセットしてくれないかい？」

小野寺 ユウスケ

「これって、いつも違う世界に行く時に使ってるやつと一緒にじゃないか!？」

光 栄次郎

「ああ、そうだよ。君達が外に出ている間にいつもセットしているんだよ。」

門矢 士

「って事は、次の行き先は爺さんが決めてるのか…？だが、その前

にそう言う夢が壊れる発言はやめろ。」

光 栄次郎

「いや、すまないね。今回もバレないようにセッティングしておこうと思っただが、やはり年には勝てなくてね。」

そう言うと、栄次郎はワザとらしく咳き込んだ。

門矢 士

「ああ、分かったから爺さんそんな目で見るなって…。変わりに付けといてやるよ…ユウスケが。」

小野寺 ユウスケ

「ちよつと、待てい…!!」

門矢 士

「おお、ツッコミが早くなったユウスケ。これなら、吉 興業狙えるな。」

小野寺 ユウスケ

「いやいや、一体何の話だ？ってか何だよその設定は？」

光 栄次郎

「とにかく、頼んだよ二人共。私はキバーラちゃんとお茶して来る

から？」

そう言うと栄次郎は、キバーラと共に部屋から飛び出した。

門矢 士

「おい、待て爺さん！！さっきの話忘れたのか？」

すぐさま後を追う士。しかし、既に栄次郎の姿はなかった。

門矢 士

「あの爺さん、クロックアップが使えるんじゃないか？」

小野寺 ユウスケ

「しょうがない…。早く終わらせようぜ士。」

門矢 士

「ああ…。で、どれをセットするんだ？」

小野寺 ユウスケ

「そうだな…。よし、読者の投票で決めよう！！とりあえず、この3つから選んでもらおう。一番、投票数が多いロールをセットしようぜ士。」

門矢 士

「ああ、大体分かった…。」

感想に描かれている絵の番号とその世界でして欲しい事を書き込んで下さい。また、感想や要望もありましたら気軽にどうぞ！

1 ・魔法陣らしき物の中央に赤い石が描かれている絵（鋼の錬金術師）

2 ・生徒会室のような部屋の絵（生徒会の一存）

3 ・その他

リミックス1／新たな旅立ち（後書き）

まさかの投票…。もし、2が選ばれたら…（－ －）

投票期限は、2010年7月21日までです。

リミックス2・5（前書き）

今回もダラダラと…。

それと、多分見苦しいですね…く（。 。 ;）

また、夏海出ません。

次回からはしっかり出します。

リミックス2・5

門矢 士

「ユウスケ、どのルールが選ばれたんだ？」

小野寺 ユウスケ

「3の背景ロール。…って事は、行き先も分からないじゃないか！
！」

門矢 士

「だいたい分かった。」

士は、そう言う素早くルールをセットし始めた。

小野寺 ユウスケ

「ちよっと！！士、何付けてんだよ。」

門矢 士

「何って、早く付けないと話が進まないだろ？」

小野寺 ユウスケ

「そりゃあ…、そうだけど…。でも、これは絶対危険だろ？畏だろ？」

門矢 士

「お、おいユウスケ…！？どうした？少し落ち着けて。」いきなり興奮し出したユウスケを宥める士だが、ユウスケは尚も暴走した。

小野寺 ユウスケ

「だいたい士はいつも、『だいたい分かった…』って言うてるけど、本当に分かってるのか？その場しのぎだろ？」

門矢 士

「なっ…！？もしかして、俺…叱られているのか？それと、声まねが微妙に似てて腹立つんだが…。」

小野寺 ユウスケ

「クールな無口キャラは、ヒューマノイドインターフェイスに与えられた特権何だぞ士…！！」

意味不明な事を言い出し興奮状態が臨界点を突破したユウスケは、士に襲いかかった。

門矢 士

「くそ、一体何だ…。今回の話は…。全く意味が分からん…。」

暴走したユウスケから逃げる士。だが、壁際に追い詰められ遂に絶

対絶命のピンチを迎えた。

門矢 士

「こんな時こそ…投票システム！…今回のテーマは暴走したユウスケを止めるための方法。下の2つから有効だと思った物を一つ選んでくれ。」

1・光家秘伝笑いのツボ

2・ユウスケとのBLEEN…『正解は、3番のぶっ飛ばすだ！』

士の力強いエルボーがユウスケの顎を捕らえ、ユウスケはその場に倒れた。

門矢 士

「はあ…はあ…。小説の次は、何を破壊させる気だ作者…？冗談でも書くな！全然、健全じゃないだろ！！考えただけで寒気がする…。と、とにかく次の世界は特撮作品の世界に行く事は決まった。コラボレして欲しい特撮作品を送ってくれ。俺は…寝る…。」

リミックス2・5（後書き）

コラボして欲しい特撮作品がありましたら、ぜひ！！本当に！！お願いします！期限は、8月3日です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4094m/>

新・仮面ライダーディケイドリミックス

2011年4月8日21時31分発行